



K.A.S 海老名市自閉症児・者親の会 会報

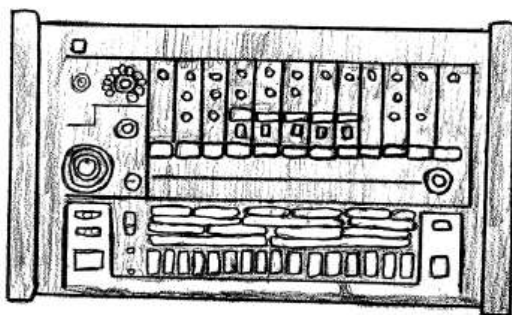
やまびこ

第48号

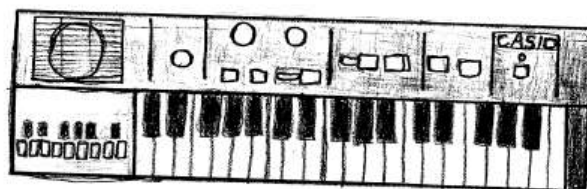
編集：海老名市自閉症児・者親の会 <https://yamabiko-ebina.jimdofree.com>
会長 長谷利江



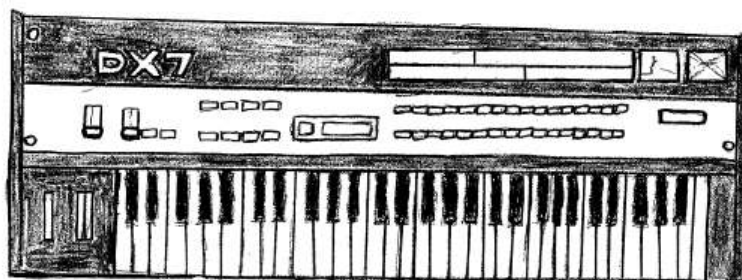
定価5円 年2回発行



ROLAND TR-808



CASIO MT-40



YAMAHA DX7

「シンセサイザー 往年の名器」 作者：Shun

講演会報告 2022.6.29

子どもが不登校になってしまったら

～発達障がいの可能性を含めて考える～

講師：西岡秀樹氏

6月29日海老名市文化会館に於いて県央福祉会法人事務局研修部部長の西岡秀樹氏をお迎えして開催しました。

今回は不登校をテーマに、西岡先生にわかりやすくお話しして頂きました。不登校は8年連続で増加傾向にあり昨年度は過去最多でした。その要因は様々ですが、主に友人関係、学習への不安、体調不安定、精神面の弱さ、発達障がいの特性等が上げられ時期としては長い休みの後がなりやすいようです。

メンタル上の問題の根底には、知的障がい、自閉スペクトラム症等が隠れている事があり見えにくいため見逃す事が多いです。発達障がいがある児童、生徒は不登校になるリスクが高くなる事が知られています。何故なら、その特性ゆえに集団の中で過ごし辛くなってしまふからです(多動、衝動性によるトラブル、感覚過敏、学習の偏り、トラウマ、フラッシュバック等)。



大切な事は、不登校のサインを見逃さない事です。学校での変化(遅刻、早退、欠席が多くなった、授業に集中しなくなり無気力、不機嫌等)、家庭での変化(朝なかなか起きない、親に対して反抗的、頭痛、腹痛が多くなった、無口、外に出たがらない、ゲームにのめり込む等)このような変化をしっかりキャッチしてあげてください。そして重要な事は、子ども本人の気持ちを受け止めつつも、実際の対応をすることです。トラウマが大きく影響することを理解した上で学校活動に参加できる方法を探し、発達障がいの特性に合わせた支援工夫を行い、服薬も検討しましょう。

また学校と良い関係性を築くためには、担任と家庭との対話、相互関係が重要で教育コーディネータ等との関係づくりや教育相談センター、教育委員会等、外部と繋がることも大切です。

以上のことを踏まえた上で私たち親は常に子どもと向き合い、子どもからのシグナルを見逃さない、そして学校と連携を図り情報共有することが重要と感じました。

(大久保)

<参加者アンケートより>

【会員】

・とても勉強になりました。「信じて待つはダメ」受け止めてから対策をと、はっきり言ってもらえて良かったです。これをしない事を教育や心理学を学んでいる人たちから、よく言われたので…定型と発達障がいの子の違いを言ってもらえたのも良かったです。投薬に関しては推されるのは驚きました。



・先生の話された事が全て息子の事に当てはまりました。この事は他の会員に向けて、若い人たちに話したいと思います。不登校になってしまうと親も慌てるし勉強する気にもなれず対応に苦勞するので、子どもが落ち着いている時こそ聞いておくべき事だと思いました。西岡先生には今後もお世話になりたいです。ありがとうございました。

【会員外保護者】

- ・発達障がいについての理解をわかりやすく講義いただき、自分の子どもを思い浮かべながら深める事ができました。ありがとうございました。
- ・子どもが不登校になり始めたので、いろいろ学ばせて頂いています。ゲームの事も知りたいです。

表紙のイラスト「シンセサイザー 往年の名器」

～ 作者 Shun さんのコメント ～

掲載されている音色やリズムパターンが人気を博した、40年ほど昔の機材たちで気に入っています。



講演会報告 2022.9.9

自由時間、どうしていますか？ ～余暇と社会性について～

講師：諏訪利明氏

えびな市民活動センター“ピナレッジ”にて、諏訪利明先生を講師に迎えて、講演会を開催しました。2015年2月より、毎年開催してきたこの連続講演会は、今回で7回目となります。ただ、コロナ禍のため、前回（2019年11月）から約3年ぶりの開催でした。

待ちに待った講演会だったわけですが、あいにく夏前からコロナの第7波が猛威をふるっており、検討を重ねた結果、対面ではなく、先生に岡山からZOOMでご講演いただき、参加者は会場のスクリーンを見ながら聴くという形にしました。事前に会場の機器とパソコンの接続チェック等はしていたものの、海老名やまびこ初のオンライン講演会ということで、無事に始まるまで大変緊張しました。

さて、今回のテーマは「余暇と社会性」です。まず、余暇の定義ですが、原則として「一人で過ごす」活動です。これに対し、いわゆる社会活動というのは、「誰かと過ごす」ということになります。

余暇はなぜ必要なのでしょう。まず、あげられる理由としては、自閉スペクトラム症の人にとって、自由時間に「何をしたらいいかわからないというのは辛い」からです。そして、余暇は、「生活の質の向上のために不可欠」なものですし、何より誰にとっても自分のしたいことをする時間は「楽しい」ですよね。

しかし、自閉スペクトラム症の人たちの場合、この余暇の過ごし方を最初から本人任せにしているはいけません。「生活の質の向上」のためには、余暇を「教える」「育てる」という発想が大切だというお話でした。

余暇を教えるのであれば、支援する側に余暇活動の経験が豊富になればなりません。教える側のレパートリーが必要です。支援者自身が、まず、自分の余暇を見直してみましよう。

余暇を考えていくときの方向としては、①本人のレベルに応じた組み立て（できることは何か、興味があることは何か）②一人ひとり違う「個別化」の発想（楽しめることは千差万別、みんなで一緒はかなり先のゴールの可能性）③年齢相応を意識（余暇は見た目も大事）の3点があげられます。全部できる必要はなく、あくまで「楽しめる



かどうか」がポイントです。支援つきでOKであり、時には本人に合わせてルールを変えても良いでしょう。

余暇スキルを教えるにあたっては、まずアセスメントをおこない、目標を設定し、構造化をします。そして、再評価の際、「本人は楽しめているか？」という視点を忘れないようにします。目標を立てる際は、「別な場所でもできるか」ということも考えてみましょう。学校で高度な工芸作品を作れるようになって、家でできなければ、結局余暇にはなりません。また、保護者の優先順位や習慣と連動するようにする必要があります。



グループ活動を組み立てる場合も、まずアセスメントから構造化をします。このとき、「新しいことはまず1対1で教える」ことを忘れないようにしましょう。社会性のレベルの評価をするときは、本人にとって社会的に「快適な」レベルはどれか、をつかんでおきます。他人と一緒にいるためには、好きなものが必要なのです。また、この場合の社会性とは、社会スキルではないことに注意してください。社会性が育っていないのに、スキルだけを教えるのは、後々トラブルの元になるそうです。「ルールが全て」→「でも何のためかわかっていない」ということになったりします。ルールは、自分のために守るべきものです。そして、自分の社会性に合わないままグループに参加していたら、集団参加そのものが嫌になります。適応を急がないことが大切です。

他者との関わりのレベルをアセスメントするときは、「自由な場面で」「自発的に」どう他者に関わるかを観察します。そして、どんな環境の助けがあれば関わりが生まれやすいかを考えます。「近接」「並行」「共有」「協力」「順番交代」「ルール」「相互性」という段階を考えながら行動をチェックしましょう。

【例】本人の社会性のレベルが「並行」と思われるケース

→同じオモチャを全て2組用意し、そばで一緒に遊ぶことから始める。

「本人にとっての楽しみ」「社会的に快適なレベル」「わかりやすい構造化」が揃って初めて、本人にとって楽しい社会的経験を提供できます。その集団が楽しければ、本人はもう一度そのグループに参加したいと思うはずで、それが社会性の発達する機会を促すことになります。

余暇＝自立であり、主体的に行動することが余暇の確立に繋がっていきます。社会性は「社会的な場」を経験することで、時間をかけて成長していくものと考えるのが良いでしょう。

「仕事ばかりしていても生活の質はあがらない、仕事ができるようになるだけ」「生活の質というのは、余暇が問われる」という先生の言葉が、とても印象に残りました。
(長谷)

施設見学会



日中サービス支援型 グループホーム

「にじのはし」

海老名市中新田に新しくできたグループホーム「にじのはし」の見学に行ってきました。中新田クリエイトの裏辺りにある新築のグループホームです。開所は今年の夏でした。日中支援型グループホームです。精神、知的、身体、区分3以上の方が対象です。

建物は2階建てで、1階、2階で男女の生活区域が分かれています。洗濯物は外注に出すようですが、洗濯機はありますので自分でやることもできるかもしれません。食事は他で経営している老人ホームで調理したものを運んできます。昼2名、夜1名で支援し、外出は緊急時以外、ヘルパーなどによる別のサービス利用での外出になります。ここは、医療機関との連携があり往診もできるようですが、主治医についてはどうするのか検討が必要になるかもしれません。

日中支援型グループホームですので、通所や外出ができない方はずっといることができます。そういう方には就労支援もしていて、スーパー「なかや」との連携により、グループホーム内での袋詰め作業等の共同作業をすることができます。グループホーム内で作業ができることが、このグループホームの特徴です。引きこもりぎみの方には良いのかなと思います。

Wi-fiについては、別料金で使えるそうです。ただ、機器に関する支援はできないそうですので、自分で対応することになります。これからは、便利なWi-fiを使えるところが増えるかもしれません。

グループホームも特徴のある生活の場となってきました。利用する方に合うかを見極めて利用を検討してください。

(水上)



施設内の様子

活動報告 5/16～11/15

5/19 7/21 9/20 10/21 11/15 定例会 11/15 会報発行
6/3 10/7 プリズム座談会
6/29 講演会「子どもが不登校になってしまったら
～発達障がいの可能性を含めて考える～」講師：西岡秀樹氏
6/30 施設見学・日中活動支援型グループホーム「にじのはし」
7/16 9/6 10/25 11/9 11/12 まなピタネット・ミーティング (ZOOM)
7/30 学びのビュッフェ参加
8/4 えびなファミリークリニック「ソラーレ」説明会
8/23 市へ要望書提出 8/24 まなピタネットと障がい福祉課訪問
8/29 ビナレッジ・パソコンテスト
9/3 海老名おやじの会・オンライン会ゲスト参加
9/9 講演会「自由時間、どうしていますか？～余暇と社会性について～」
講師：諏訪利明氏
5/20 6/17 7/15 8/19 9/16 10/14 11/11 オンライン・ヨガ教室
5/19 会報印刷 7/21 県協会広報・総会報告印刷
11/15 会報・県協会広報印刷 10/3 赤い羽根共同募金・街頭募金活動

自立支援協議会

5/31 10/17 本会議 6/23 10/28 障害者差別解消支援地域協議会
6/30 9/5 11/11 チーム「育つ・学ぶ」 7/27 チーム「働く」
8/3 9/28 チーム「まもる・つながる」 8/24 チーム代表者会議

障害者団体連合会

5/17 会計監査 5/31 総会 7/28 10/17 役員会 8/26 要望書懇談会
7/8 9/15 10/20 ふれあい交流会打ち合わせ
8/18 9/15 10/13 11/10 市民まつり実行委員会
10/4 市民まつり休憩所打ち合わせ

こころのバリアフリー

5/27 7/22 9/28 10/28 実行委員会

7/27 結夢運営推進委員会 8/26 障がい福祉関係団体と市長との懇談会
*K.T.S.障がい相談窓口水曜日担当 7/20 9/15 打ち合わせ

【県協会】

6/11 総会・総会記念講演会

「自閉症の息子と住んでみた！～福祉先進国デンマーク～」

講師：山田正人氏

- 7/10 9/11 役員会 7/6 執行会議 (ZOOM) 7/15 11/15 広報発行
 5/19 テーマ別検討会「中井やまゆり園の内部調査について」(ZOOM)
 5/21 8/28 日本自閉症協会代表者サミット会議 (ZOOM)
 5/26 6/2 テーマ別検討会「会員増減のための地区の情報交換」(ZOOM)
 6/3 6/28 7/8 10/31 要望書検討委員会 (ZOOM)
 6/10 地区交流会 (大和・座間)「女の子について」(ZOOM)
 6/26 日本自閉症協会・総会
 6/30 テーマ別検討会「県協会HPについて」(ZOOM)
 7/14 神奈川新聞厚生文化事業団訪問 (作品展後援依頼)
 7/14 テーマ別検討会「県当事者目線の障がい福祉推進条例の素案について」(ZOOM)
 7/19 県当事者目線の障がい福祉推進条例の条例素案の説明及び意見交換 (ZOOM)
 7/30～8/3 自閉症療育者のためのトレーニングセミナー
 8/30 県要望書提出 (郵送)
 9/20 10/4 11/10 日本自閉症協会関東ブロック会議 (ZOOM)
 9/24 AS-pace 勉強会「知的障害のない(軽い)ASDの人たちの住まい方」
 講師：又村あおい氏
 9/29 テーマ別検討会「日本自閉症協会全国大会について」(ZOOM)
 10/8～9 日本自閉症協会全国大会/加盟団体連絡会議 (佐賀)
 10/18 父母連要望書懇談会

活動予定 11/16～5/15

- 1/ 2/ 定例会 12/ 3/ 役員会 1/ 新年会 4/ 総会 5/15 会報発行
 11/ 障がい福祉課との懇談会 12/3 HFA 部会・講演会 (まなピタネット共催)
 1/ プリズム座談会 12/9 1/6 2/3 3/10 オンライン・ヨガ教室
 12/1 年末たすけあい募金

自立支援協議会

- 11/29 1/25 チーム「まもる・つながる」12/1 合同事業所説明会 2022
 12/6 チーム「働く」ハローワーク厚木・障害者就職面接会
 12/14 3/13 チーム代表者会議 2/10 本会議

障害者団体連合会

- 11/19～20 市民まつり実行委員参加 11/20 市民まつり障がい者休憩所
 11/26 ふれあい交流会「ボッチャ体験会」

こころのバリアフリー

12/8 1/27 3/17 実行委員会

11/26 映画上映「僕とオトウト」&トークショー

12/24 講演会「誰にでも輝ける場所がある」 講師：大前光一氏

11/18 障がい者福祉計画進行管理意見交換会

【県協会】

12/11 3/12 役員会 3/15 広報発行 11/18 県要望書懇談会 (ZOOM)

12/4 父母連福祉促進大会 2/23 又村あおい氏勉強会

「えびな障がい者就職面接会」開催のお知らせ

* 完全事前予約制 * 参加事業所 8 社予定 (市内及び近隣市)

日時：2022年12月6日(火) 13:00～16:15

会場：海老名市役所 401 会議室

持ち物：応募書類 (面接事業所数分)、履歴書、障害者手帳等

対象：ハローワークに求職登録済みで、障害者手帳を所持している方

主催：ハローワーク厚木・海老名市自立支援協議会「チーム働く」

問い合わせ・申し込み：ハローワーク厚木 専門援助部門

046-296-8609 (部門コード：45#)

※詳細は、ハローワーク厚木の HP をご確認ください。

※広報えびな 11/1 号 19p にも掲載されています。

《当会のチーム働く担当より》

チーム働くでは、年4回程度の会議等を通じて、障がいのある方の働く機会を増やし、安心して働き続けるために何ができるか、話し合いや情報交換をしています。啓発のため、企業が集まる場への参加や会社訪問などの活動もしています。

メンバーは、各支援機関、市内就労系事業所、近隣の養護・支援学校、市社会福祉協議会、市商工会議所、市(商工課、職員課、障がい福祉課)の他、私たち当事者家族の会もあります。私たちの子どもたちが明るく働いて社会参加し、よりよい社会を作っていけるように力を合わせていきたいと思っております。この面接会は、昨年度、市内の方の就職実績もあります。興味のある方は、是非チェックしてみてください。

事務局より

☆賛助会員 伊藤照子様 久保田英賢様 下地章子様 中江陽一郎様
 三谷裕美子様 grand-mere様 ナチュラルサポート海老名様
 ☆入会 3名 ☆会員数 35名 (2022年11月現在)

会計より

<正会員>

今年度で退会を希望される方は、**2月末までに**長谷までご連絡ください。
 2023年度年会費(6,000円)は下記口座へ**3月末日まで**にお振込みください。

<賛助会員>

ご理解、ご支援ありがとうございました。来年度も引き続きよろしくお願ひ致します。**3月末日までに**2023年度年会費(2,000円)を下記口座までお振込みください。

●振込先●

ゆうちょ銀行からお振込みされる場合	ゆうちょ銀行以外の金融機関からお振込みされる場合
記号： 10250 番号： 83032311 加入者名： 海老名市自閉症児・者親の会	金融機関名： ゆうちょ銀行 銀行店名： 〇二八(ゼロニハチ) 店番： 028 口座番号： 普通預金 8303231 加入者名： 海老名市自閉症児・者親の会

※振込控を領収書とさせていただきます。

※現金集金は総会にてのみお受けします

会員・賛助会員募集中!

海老名市自閉症児・者親の会(海老名やまびこ)は海老名市在住の未就学児から成人までの自閉スペクトラム症の子どもを持つ親の会です。「子ども達の権利と幸福の為、療育、教育、福祉、労働、研究の充実を図る運動や活動」を地道にですが積み上げていきたいと思っております。入会またはバックアップして下さる方を募集しております。お気軽にお問い合わせください。

HP <https://yamabiko-ebina.jimdofree.com/>

会長 長谷

☆会員、賛助会員の方には会報をお届けします。

**編集後記**

諏訪先生の講演会、Zoomでの開催となってしまいましたが、開催することが出来良かったです。子どもの小さいころを思い出しました。(K)